



東海地震の想定震源域の再検証を進めている中央防災会議・東海地震に関する専門調査会（座長・溝上恵東大名誉教授）は十九日、一九七九年に作成したこれまでの想定

## 中央防災会議が 22年ぶり見直し

震源域を二十二年ぶりに見直し、全体的に西方に移動させた新たな想定震源域を示した。

新たな想定震源域は西端を愛知、静岡両県の県境付近、北端を山梨県南

# 東海地震 想定震源域 西に膨らむ

部、南西端を遠州灘南方沖合約六十キロまで延長。

以前は長方形で示されていたのに対し、南北に長い円で示され、対象面積は二割ほど増えた。想定される最大マグニチュード（M）は8で、以前と変わらないとされた。

## 強化地域 愛知など拡大へ

想定震源域は、あくまで震源の予想図で「被害が想定される地域」とは異なる。防災会議では新たな想定域を基に、実際の地震が発生した場合の

揺れや津波、液状化など。今回想定震源域が変動したのは、震源そのものが移動したのではなく、地震観測技術の向上や観測網の充実で高精度の微小地震データが得られるようになったほか、海域での地殻構造探査の手法が進展し、駿河湾から遠州灘にかけての海底地殻構造が明らかになり、全体的に震源域がより細かく想定できるようになったためという。溝上座長は「二十数年の知見を投影した集大成」と話して

## 冷静に受け止める

愛知県消防防災課は「地盤によって揺れの伝わり方が異なるため、仮に震源域に加えられることになっても、ただちに強化地域になるわけではない」と冷静に受け止めている。静岡県消防情報室は「震度分布も被害も、県内がかなり大きくなるという予想自体には変わりはないはず。まったく違う想定が出てきたということではない」と受け止めている。

「県内では、長野県境の中津川市が強化地域に指定されているが、想定震源域が西に膨らむと、県内の被害地域が広がる可能性が高い。県内全域で公共建築物の耐震性や消火力のレベルアップに努めたい」と話している。